ペルー大使館文化大使インタビュー

外国語学部英語英文学科２年　吉田智世
長瀬絢香
山口恭実
山崎あい

スペイン語学科のイベントでペルー大使館文化大使のジョイシ・ゴヤさんが神奈川大学にいらっしゃる日があった。私達は空き時間に話を伺えることができた。場所は普段『PLUSi』の打ち合わせで使用している17号館の一室。スペイン語学科の小倉英尊先生ご同席のもとインタビューは行われた。

●ペルーはどのような国ですか？

日本の面積の約３．５倍の大きさです。人口は約２９００万人で、首都のリマには人口の３分の１の人が住んでいます。ペルーのほとんどの人は海岸地域に住んでいます。国の中心には有名なアンデス山脈がそびえ立っています。世界には気候の種類が１０８あると言われていますが、ペルーにはその内の84種類があります。リマの気温は年間15℃～19℃で、夏は暑くても58℃、冬は寒くても14℃と温暖な気候です。しかし近年は地球温暖化の影響でその差が激しくなっています。リマから北の地域のエクアドルから２００～２５０㎞離れている場所や、チリの国境近くの土地は砂漠地帯です。ですが、空気は湿気が多く、冬に霧雨が降ることがあります。水気があるので植物が育っている場所もあります。

ペルーにはマチュピチュという遺跡があります。そこに古代ペルー人は住んでいました。様々な食材があり、海抜の高さによって育つ植物は異なります。例えば低地から高地にはトウモロコシやトウガラシがあり、高地で寒い場所にはジャガイモが育ちます。ペルーはジャガイモの原産国です。他に、トマト、ムラサキトウモロコシ、ピーナッツなどの豆類があります。ムラサキトウモロコシはポリフェノールが豊富です

よ。古代ペルー人は農作物を土器に描き、その土器は博物館に保管されているので見ることができます。

ペルーの60％は熱帯雨林地域です。そこはジャングルなので道をつくってもすぐに植物が生えてきて道が見えなくなってしまうワイルドな地域です。人はほとんどいません。

１９７０年代から80年代にコカを栽培する人が大勢いました。近年は、農家と政府が話し合って、コカの代わりにカカオや、医薬品に使われる植物や、健康に良い植物を栽培するようにしました。

ペルーはラテンアメリカの国であり、グルメの中心の国です。様々な気候と海抜、農産物があり、加えてペルーは移民の国です。元々は古代ペルー人がいましたが植民地時代にやって来たスペイン人と、奴隷として連れて来られたアフリカ系の人々、後に日本や中国からアジア系の人々がやって来ました。色んな移民が来たので料理も多種多様です。ある日本の学生達はペルー料理店で出された料理に興味津々で、全ての料理を食べて大満足したという話を聞いたことがあります。

海岸地域では魚介類、アンデス山脈地域はジャガイモやトウガラシ、アマゾン川地域では果物や川魚が美味しいです。各町に伝統的、代表的な食べ物があります。ペルーのナショナルカクテルはピスコです。ピスコはブランデーのような蒸留酒で、ブドウの皮を剥き実だけをジュースにして蒸留します。始めと終わりに出るエキスは使わずに中間に出るエキスだけを使います。1リットルのピスコを作るのに必要なブドウの量は約5～6キログラムです。ブドウの良い香りがします。また、ピスコにレモンジュース、シロップ、たまごの白身と氷を混ぜたピスコサワーもあります。泡立てて作るのでとてもスタイリッシュな飲み物です。

●ペルーには日系の方が多く、日本の文化や言葉を勉強する方々が増えていると知ったのですが。

はい。日本人が初めてペルーに移民したのは１８９９年4月3日です。今では4月3日をペルーと日本の交流の日にしています。当時の移民した日本の人々は言葉の壁を強く感じました。ペルーではスペイン語が話されるのですが、彼らは全くスペイン語が話せなかったからです。言葉を勉強する際にスペイン語だけを習う日本人の他に、いつか日本へ帰る時のために日本語の勉強をする人もいました。

第2次世界大戦時、ペルーは日本、ドイツ、イタリアとの仲が良くありませんでした。そのため多くの問題がありました。日系の人々の間で、「〝自分はペルー人である〟という誇りを子供達に示した方が良い」という考えが生まれました。それから多くの日系人はスペイン語だけを話すようになりました。日系2世の人々はスペイン語のみを話します。しかし1世の習慣や考え方がまだ残る日本人らしい部分もありました。90年代に日系3世の人は日本へ出稼ぎに行きました。当時は男性だけが日本語を勉強していましたが次第に家族で日本語を勉強するようになりました。日本で言葉の大切さを知り、それを守るために一生懸命日本語を勉強しました。近年では、日本で生まれたペルー人の子供達に日本語を教える人が増えてきています。

●ナスカの地上絵は世界的にも貴重なものとして知られていますが、ペルーの方々はそれを保護するためにどのような対処をしているのでしょうか？

多くの研究者や学者が様々な研究や調査をし、長年続いています。2～3年前に、ドイツの研究者が、ナスカの地上絵は雨期と乾期のカレンダーだったのではないか、という仮説をた

てました。ナスカの地上絵は砂漠地帯にあり、近くに川が流れています。この川は雨期になると水量が多いのですが、乾期になると水はほとんどありません。ナスカ文明の人々にとって水はとても大切でした。どうすれば水を一番良い方向に使えるか思案していました。星や太陽の動きを見て、どのような時にどの植物を植えた方が良いのかと研究をしていました。

地上絵はユネスコの世界遺産に登録されました。ペルー人の誇りであり宝物です。地上絵は空からでないと見えない絵です。太陽に何百年もあたった砂利から描かれていて、色違いの砂利のコントラストによって絵が見えるのです。地上からは見えないので一部の絵はアメリカン・ハイウェイが上に造られてしまい消えてしまったものもあります。保護するためにボランティアグループを作り、その地域を守る活動をしています。また、政府も支援しています。

●ペルーの人々はクリスマスやお正月はどのように過ごしますか？日本では、クリスマスは友達や恋人と過ごし、お正月は家族で過ごすのが一般的ですが。

ペルーはカトリックの国なので、クリスマスはアメリカやヨーロッパ風のものです。首都のリマでは」、24日の夜にクリスマスが行われます。教会でお祈りをし、22時～23時に夕食を食べます。料理はターキーやマッシュポテト、リンゴのピュレ、デザートには干しブドウやドライフルーツが入ったパンを食べます。イタリアのパネトーネに似たパンです。日本と異なり、クリスマスは家族で過ごす日です。0時に乾杯をして、子供にプレゼントを渡します。20～30年前は、25日に家族で昼食を食べ、聖日1月6日にプレゼントを子供に渡していました。

お正月は、友達や恋人とパーティやダンスをして過ごします。0時か0時前に始まり、朝まで楽しみます。最近、若者たちの間で流行っていることは、0時にブドウを12個食べると幸せになる、トランクを持ちながら自分の家の周りを走ると必ず旅行ができるというものです。

【終わりに】

ゴヤさんは一つ一つの質問にとても丁寧に答えてくださいました。ペルーについて何も知らないと言っても良いほどの状態で今回のインタビューに臨みましたが、分かりやすく、更に、とても流暢な日本語で話していただきました。ペルーの文化や意外な一面、日本との関係について知ることができました。これからも2国の友好な関係が続いてほしいと思いました。テレビや資料を見るのも良いけど、やはり現地の生の声を聞くのが良いと思いました。旅行をしたくなりました。私もお正月はトランクを持って自分の家の周りを走ってみたいです。

ジョイシ・ゴヤさん、貴重なお時間ありがとうございました。

【基本情報】

国名　ペルー共和国
首都　リマ
面積　約128万5216平方キロメートル
人口　約2822万人（2007年現在）
公用語　スペイン語（山岳地域はケチュア語、

ティティカカ湖周辺はアイマラ語を話す）

時差　日本より14時間遅れ

中央の紋章は、左上には水色の地に右を向いたビクーニャ（ラクダに似た動物）、右上には白地にキーナの木、下には赤地に山羊の角からこぼれている金貨が描かれており、国の豊かな自然と資源を表している。現在のデザインは1825年に正式な国旗として定められた。

位置（リマ）

南緯　12°00′

西経　77°07′

祝祭日

1月1日　元日

3月下旬～4月下旬　聖木曜日

3月下旬～4月下旬　聖金曜日

5月1日　メーデー

6月24日　農民の日（クスコのみ）

6月29日　聖ペドロと聖パブロの日

7月28、29日　独立記念日

8月30日　サンタ・ロサの祭り

10月8日　アンガモス海戦記念日

11月1日　聖人の日

12月8日　聖母受胎の日

12月25日　クリスマス

ペルー大使館文化大使　ジョイシ・ゴヤさん

皆で記念撮影

【参考文献】

・日本外務省
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/peru/

・地球の歩き方
http://www.arukikata.co.jp/

・最新世界各国要覧　12訂版、東京書籍株式会社、2006